

製品名: MADD ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13558**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	183kDa

抗原情報

遺伝子名	MADD
別名	MADD; DENN; IG20; KIAA0358; MAP kinase-activating death domain protein; Differentially expressed in normal and neoplastic cells; Insulinoma glucagonoma clone 20; Rab3 GDP/GTP exchange factor
遺伝子 ID	8567.0
SwissProt ID	Q8WXG6
免疫原	抗血清はヒト MADD 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 751-800

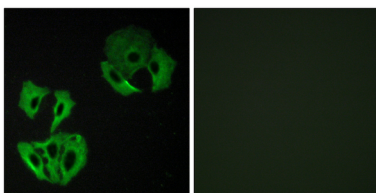
背景

腫瘍壊死因子α (TNF-α) は、アポトーシスの標的となる細胞上の2つの受容体のうちの1つと相互作用するシグナル伝達分子です。アポトーシスシグナルは、細胞質アダプタータンパク質によってこれらの細胞内に伝達されます。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、デスドメイン含有アダプタータンパク質であり、TNF-α受容体1のデスドメインと相互作用してマイトジェン活性化プロテインキナーゼ (MAPK) を活性化し、アポトーシスシグナルを伝播させます。この遺伝子は膜結合型であり、腫瘍細胞では正常細胞よりも高いレベルで発現しています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2008年7月],注意: ここに示す配列は Ensembl 自動解析パイプラインから得られたものであり、予備的なデータとして考慮する必要があります。機能: 選択的 mRNA スプライシングを介して、細胞の増殖、生存、および細胞死の制御において重要な役割を果たします。アイソフォーム 5 は細胞増殖の増加を示し、アイソフォーム 2 は減少を示します。RAB3A、RAB3C、および RAB3D の GDP 結合型不活性型を GTP 結合型活性型に変換します。TNFRSF1A シグナル伝達複合体の構成要素である MADD は、TNFRSF1A と MAP キナーゼの活性化を結び付けます。生理的細胞死 (TNF-α 誘導性、カスパーゼ媒介性アポトーシス) において重要な調節的役割を果たします。アイソフォーム 1 はアポトーシス誘導感受性、アイソフォーム 5 は誘導抵抗性、アイソフォーム 3 およびアイソフォーム 4 は効果がありません。その他: MADD の過剰発現は、マイトジェン活性化タンパク質 (MAP) キナーゼである細胞外シグナル制御キナーゼ (ERK) を活性化します。MADD デスドメインの発現は、ERK および c-JUN N 末端キナーゼ MAP キナーゼの両方を刺激し、細胞質ホスホリパーゼ A2 のリン酸化を誘導します。類似性: MADD ファミリーに属します。類似性: 1つの dDENN ドメインを含みます。類似性: 1つの デスドメインを含みます。類似性: 1つの DENN ドメインを含みます。類似性: 1つの uDENN ドメインを含みます。サブユニット: 自身のデスドメインを介して TNFRSF1A のデスドメインと相互作用します。組織特異性: 胎児の脳と腎臓、成人の精巣、卵巣、脳、心臓で高発現しています。アイソフォーム 5 はすべての組織で恒常的に発現しています。アイソフォーム 7 は胎児の肝臓といくつかの癌細胞株で発現しています。、

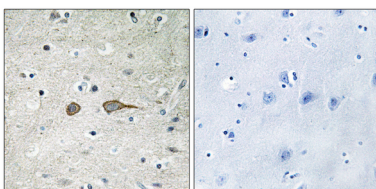
研究分野

FADD; がん; 細胞死; アポトーシス; 受容体; 細胞死受容体とリガンド; TRADD; 代謝; 経路とプロセス; ミトコンドリア代謝; ミトコンドリアマーカー; 侵入/微小環境

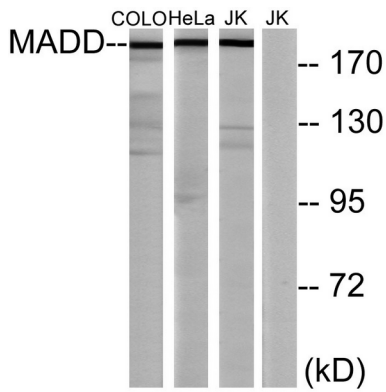
画像データ



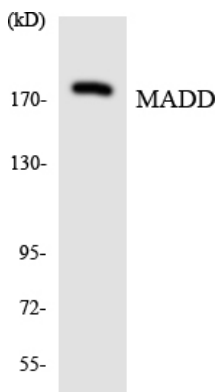
MADD 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



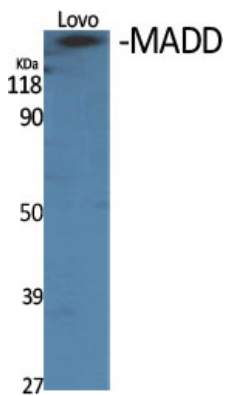
MADD 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



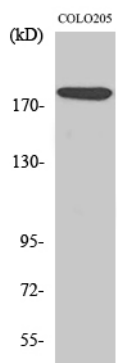
COLO細胞、HeLa細胞、Jurkat細胞のライセートをMADD抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。



MADD抗体を使用したHepG2細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



1: 1000に希釈したMADDポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



MADDポリクローナル抗体(1: 1000希釈)を用いたJurkat細胞のウェスタンブロット解析